

まじりと会便り

2023/11

みなさまいかがお過ごしでしょうか。

十月二十四日に秋季永代経法要、翌二十五日に報恩講が無事に勤まりました。コロナウイルス感染症拡大防止のために縮小しておりました法座も今年の春からは通常通りの開催ができるようになり、今回の法座からは報恩講のお斉を再開させていただきました。

丸々三年お休みをしてみようと、毎年続けていた頃よりもいろいろ不安な気持ちが強くなりましたが、皆さまのおかげで無事に再開することができました。お席について召し上がった皆さまからも「美味しかった」という声をたくさんいただき、嬉しいかぎりです。お当番だった打越地区を中心にお手伝いに集まってくださった皆さま、本当にありがとうございました。

作る人がいて食べる人がいて、両方がいないとお斉にはなりません。ご参拝の皆さま、どうぞご遠慮なくお斉のお席に着いて下さい。昼席から参拝される皆さまも、いままでお席に着かれたことの無い皆さまも、これからの機会に是非ともお席に着いて召し上がって頂きたいと思えます。

行事予定



十一月十七日(金) ヨガの会

十一月 五日(火) ヨガの会

十二月 十五日(金) ヨガの会

ヨガの会は 一時半より 光圓寺 本堂

令和六年

一月十二日(金) 御正忌法要

午後一時半より 光圓寺本堂

講師 住職

※例年と日にちが変わっております

報恩講 ありがとうございます

今年は三年ぶりに北九州から香川孝志師に

ご登壇頂きました。

前回到引き続き、永代経法要や報恩講のいわれや法座の意味を詳しくお話しくださいました。

お寺の本堂はその建物が大事なのではなく、その中で行われる法座が大事なのだということ。人が集まり、お経を読み、その教えをいただきながら後の世代へ受け渡していくという営みの大切さを強くお示しくださいました。コロナ禍を経たために法座へ向かう意識が薄れてしまうことを大いに危惧されており、そのお示しに私たちも気持ちを引き締まる思いがしました



生の依りどころを与え

死の帰するところを与えるのが南無阿弥陀仏

金子 大榮師

法語カレンダー十一月のことば

現代では若い人の多くが、自分の苦悩やこの世をどう生きていくか、あるいは幸せになるにはどのような宗教が自分にふさわしいのか、その解決法を情報収集するような態度で宗教に触れています。

しかし、それは単なる情報の消費でしかなく、へたをすれば次から次へと情報を取り込んだことによって、かえって迷いを深めてしまうことにもなりかねません。

どのような教えであつても、それを利用し、何かに至るための手段のように考えるのではなく、その教えそのものが私たちの行き着くところ「目的」といitただかなくはてなりません。

宗教に遇うということは、自分が何者であるかが知らされるということ。そこから自分の考えを中心に生きてきた生き方が、その考えを中心にして生きていく生き方へと転換されていくのです。



浄土真宗は阿弥陀仏の本願を宗とする教えです。

本願とは私たちにかけられた阿弥陀仏の願いです。自らの力では到底迷いの世界から抜け出ることのできない私たちを、すべての悲しみ、苦しみを超えた平等なる世界「極楽浄土」に生まれせしめたいという阿弥陀仏の願いです。それは私たちが救ってくれと求めたからかけられた願いではなく、阿弥陀仏の方からかけてくださった願いです。求める前からかけられ、ととのえられた願いです。私たちが、自分が何者であるかを知るといふことは、阿弥陀仏から願いをかけられている私であったと知らされることです。

阿弥陀仏はこの私に何も求めてはおられません。何の条件を付けることなく、欲深く罪深くにしか生きることでできない私を救ってくださいると願ってくださいいます。私たちにできることはこの願いを受け入れてお念仏させて頂く、これより他にはありません。

ただお念仏することに向かうことができず、教えを利用して何らかの役に立つかたちにしようとする独りよがりな心からなかなか離れられない私たちに、生の依りどころを与え、死の帰するところを与えてくださるのが南無阿弥陀仏のお念仏であると、金子師は言われたのでした。